

虫刺され早めに対処を

うろこ雲が秋空に映える頃、まだまだ残暑厳しい日が続きますが皆さまいかがお過ごしでしょうか？

これだけ暑いと虫の活動もまだ盛んで、蚊やダニ、ブヨなどの虫に刺されることも多くあります。虫に刺されると、体がアレルギー反応を起し、強いかゆみや赤み、

水ぶくれ、腫れなど皮膚の炎症反応が生じます。

若い人に比べて高齢者の皮膚は乾燥しやすく、バリア機能が弱くなって、いるため刺激に敏感で、症状が長く続いたり悪化したりすることが少なくありません。

さらに、自己免疫疾患や糖尿病などの持病がある方は傷が治りにくく、時には蜂窩織炎（ほうかしきえん）など皮膚炎が重症化するリスクも高まります。

虫刺されの治療には、まず抗ヒスタミン薬の塗り薬やステロイドの塗り薬を使用して症状を抑えるのが一般的です。

こういった薬剤は市販もされています。かゆみや症状が強い場合にはアレルギーを抑える飲み薬を使用することも有効です。



師に相談することが必要です。

予防としては、肌の露出を避ける服装にしたり虫除けスプレーを使用したりするなど、日頃の対策が効果的です。

また、室内では網戸の点検やダニ対策を行い、清潔な環境を保つようにしましょう。高齢者は皮膚の回復力が低下しているため、虫刺されと軽く考えず、早期に適切な対処を心掛けましょう。

秋の夜長を虫の音を聞きながら、健やかに過ごせますように。

（薬剤師 西 美香）

薬師 西 美香

[117]

大阪地区薬剤師会

さらに、かきむしって傷になってしまった場合には、抗生物質の軟こうを処方されることがあります。症状が改善しないときは早めに医師や薬剤